

「BMD 疫学指針」の構成のイメージと進め方

- 食品健康影響評価におけるベンチマークドーズ法の活用に関する指針[疫学研究で得られた用量反応データへの適応]（以下、「**BMD 疫学指針**」という）の策定するにあたり、食品健康影響評価におけるベンチマークドーズ法の活用に関する指針[動物試験で得られた用量反応データへの適応]（以下、「**動物指針**」という）の構成を倣う。
- 個別の記述については、踏襲するところと変更するところの考え方の違いが明確になるようにする。

	参考：動物指針の項目	疫学指針のイメージと進め方
第 1	目的	・ (動物指針を踏襲)
第 2	定義	・ 新たな用語を追加
第 3	食品安全委員会が行う食品健康影響評価における BMD 法の活用	・ (動物指針を踏襲)
	1 <u>BMD 法を適用する用量反応データの収集・選択</u>	・ 疫学研究の特質に合わせて記述を変更 (特に、データの収集、BMD 法の適用、データ処理等に関して)
	2 <u>BMR の設定</u>	・ 疫学研究の特質に合わせて記述を変更
	3 <u>用量反応モデリングと結果の評価及び POD の決定</u>	・ 疫学研究の特質に合わせて記述を変更
	4 <u>結果の文書化</u>	・ (動物指針を踏襲)
第 4	指針の見直し	・ (動物指針を踏襲)